

第11回 日韓沿岸技術 研究ワークショップ



一般財団法人 沿岸技術研究センター
研究員 松村 健悟

はじめに

日韓沿岸技術研究ワークショップは、日本および韓国の沿岸分野に関わる研究機関が参加し、研究成果や技術動向を共有するとともに、相互の交流を深めることを目的として、韓国海洋科学技術院（KIOST）、港湾空港技術研究所（PARI）、一般財団法人みなと総合研究財団（WAVE）、および一般財団法人沿岸技術研究センター（CDIT）の4団体により、継続的に開催されている国際ワークショップです。

第11回となる日韓沿岸技術研究ワークショップは、2025年12月8日（月）に、韓国・済州島のKIOST Jeju Research Instituteにおいて開催されました。

日本からは、PARI河合所長、WAVE津田理事長、CDIT宮崎理事長をはじめ、各セッションの発表者等が多数参加しました。

ワークショップ

本ワークショップでは、日韓双方から、沿岸防災、沿岸新技術、沿岸管理、沿岸環境の4テーマに関する研究発表に加え、基調講演および特別講演を含む、計15件の発表が行われました。

CDITからは、
澁谷主任研究員、
西潟研究員、石塚
研究員が研究発表
を行い、また山本
研究主幹がセッ
ションの一つで座
長を務めました。



質疑を受ける澁谷主任研究員

基調講演では、KIOSTのPARK, Woo-Sun先生から、「インターロッキングケーソンの港湾構造物への適用」と題する講演が行われました。インターロッキングケーソンは、ケーソン両端部を凹型とし、捨て石等により隣接するケーソン同士を結合することで、波浪や津波な

どの外力に対する抵抗力を高める設計手法であり、すでに韓国において港湾構造物への導入実績があることが紹介されました。

また、PARI米山治男特別研究主幹による洋上風力発電に関する特別講演では、日本の環境に対応した設計に関するソフトウェアの改良や検討課題について説明があり、CDITが共同で実施している研究として、モノパイル基礎の洗掘防止対策に関する検討内容が紹介されました。

最後に、CDIT宮崎理事長が閉会の挨拶を行い、本ワークショップは閉会しました。



閉会の挨拶 CDIT宮崎理事長

現地視察

ワークショップ翌日の12月9日（火）には、済州島南西部に位置する和順港（ファスン港）において現地視察が行われました。

視察先では、和順港を済州西南海域における拠点港湾として整備することを目的とした、漁業指導船埠頭および臨港道路の整備事業について、工事概要の説明を受けるとともに、施工中の港湾施設および周辺状況の確認が行われました。



工事中の親水護岸

おわりに

本ワークショップの開催にあたり、ご協力いただいた関係各機関の皆さま、ならびに発表および運営に携わっていただいた日韓両国の関係者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

また、温かいおもてなしをいただいた韓国側関係者の皆さまに、厚く御礼申し上げます。

なお、次回の第12回の日韓ワークショップは、CDIT主催のもと、日本での開催を予定しています。